

令和5年度 第2回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月19日（木） 9時55分から11時20分まで
- 2 開催場所 曳馬中学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、太田 悦則、池村 俊典、
中川 恭子、鈴木 秀住、上原 敬浩
- 4 欠席委員 佐藤 洋子、鈴木 哲也、平間 良明
- 5 オブザーバー 野川 敬司（曳馬協働センター）
- 6 学 校 玉木 言明（校長）、平原 政和（教頭）、
廣田 憲一（主幹教諭・CS担当）、今田 明子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 1名
- 9 会議記録作成 CSディレクター 今田 明子

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、芳次会長から太田委員を推挙する旨の発言があり、全員異義なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 令和5年度学校経営方針・学校教育活動の経過報告について
- (2) 部活動について
- (3) 制服について

12 会議記録

司会の廣田から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和5年度学校経営方針・学校教育活動の経過報告について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和5年度学校経営方針・学校教育活動の経過報告について説明があった。続いて、主幹教諭廣田から、別紙資料に基づき学校教育活動アンケートについて説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- ・「便りやHPなど情報を発信している」という保護者の評価が90%あるのに、「生徒の特長に応じた学習の手助けを行っている」の回答が保護者と生徒で大きく乖離している。細かな情報発信はブログ等では難しいので、情報発信の仕方を工夫した方がよい。参観会以外でも保護者が普段の学習を見る機会を設けられないか。第三者が入ることで生徒の聞く姿勢がよくなることもあるのでは（池村委員）
→どのような形でできるか検討する（玉木校長・廣田主幹）
- ・参観会以外でも保護者が入れるというのはよい。行事や部活動の達成感を保護者だけでなく、地域住民とも共有できればさらによいと思う（秀住委員）
→吹奏楽部は協働センターで発表を行うなど地域にも開かれた活動をしている。他の部活でも行えるとよい（玉木校長）

→固定の時間ではなく、ある程度の期間を区切った参観会であれば保護者や地域の方々にも授業や部活動を見てもらうことができると思う（中川委員）

→地域の方々が見てみたいという気持ちがあるのはわかるが、来訪者の身分を確認する人員も必要になると思う。3年生の2学期は学習の正念場であり、適切な時期を検討願いたい。見られるということで、先生方は生徒に対する公平性を意識する。

（太田委員）

→1週間程度の公開期間であれば検討の余地がある。ただ、セキュリティの観点から、誰でもというわけにはいかない。教員もいつ見られてもいいように意識することは大切である。（玉木校長）

- ・「生徒の特長に応じた学習」というのはとらえ方が難しい。今の生徒はいろいろ支えられており、支えすぎが「自律」の気持ちを摘むこともあるのでは。甘やかす支えにならないように指導いただきたい（上原委員）
- ・協働センター祭り等の地域のボランティア活動や防災訓練等の地域行事への中学生の参加を引き続きお願いしたい（芳次委員）

（2）部活動について

議長の指示により、主幹教諭廣田から、別紙資料に基づき部活動について説明があり、部活動の精査の進め方について意見を求めたところ、委員からは以下の発言があった。

- ・部活動を地域へという流れは変えられないが、部活動の技術を学ぶことが先生とではなく地域とだけで本当にできるのか。現在すでに部活動を手伝ってくれている方々の意見をよく聞いてほしい。部活動なしにオリンピック選手等優れた選手が育つのは難しいのではないかと（芳次委員）

→部活動として1つの活動だけに打ち込むことも大切だが、1つだけにとらわれず様々な経験を積むことも同様に大事（玉木校長）

- ・部活動を地域住民に公開することで、地域密着で行っていききたいというPRになる。いきなり指導員という形ではなくても、ふれあいとしてのつながりから入ると入りやすい（秀住委員）

→現在市で指導員の募集をしてくれており、学校単体では現状発信していない。すでに外部コーチが入ってくれている部活動もある。顧問は数年で変わるが、外部コーチは継続できる良さがある（玉木校長）

→ぜひ学校としても発信をしてほしい。部活動やその他の活動の支援員探しをコーディネーターに依頼している学校もある。考えているだけではなく、地域と協力して進める時期にきているのではないかと（太田委員）

→校長会等でも意見を出し合いながら進めてほしい（芳次委員）

→教員や生徒は目の前のことに一生懸命だが、システム変更は目前に来ている（玉木校長）

- ・部活動の結果や記録は進学に影響するのか。影響するなら部活動のシステムが変わることによって進学にも影響するのでは。地域クラブでも、お金がかかるところ、あまりかからないところがある（池村委員）

→部活動名、一定以上の大会記録等は調査書に記載はする。高校側でどう判断するかは、中学校では分からない（廣田主幹）

→中学側でのプラスポイントはない。高校側での判断になる。部活動の良さもあるが、教育課程からは外れており、実際小学校でも部活や大会の廃止が続いている（玉木校長）

・部活動への補助は運動部、文化部の差なく行われているか（太田委員）

→現在、部活動育成会では集金しておらず、受益者負担である（玉木校長、上原委員）

（3）制服について

議長の指示により、主幹教諭廣田から、別紙資料に基づき制服について説明があり、委員からは以下の発言があった。

・現小中学生の生徒、保護者の判断に任せるしかないのでは。地域の人は見慣れた制服に愛着があるかもしれないが（太田委員）

→学生服やセーラー服の価格高騰やLGBTへの配慮に伴い全国的にブレザー化が進んでいる。本校でも今夏より職員研修会を始めた。みんなで変えようという動きになったときに変えるのがよい（玉木校長）

→保護者に判断を任せる形でよい。中学生は制服を着る機会が少ないので、お金がかからない方向がよい。市内統一の流れはないか。OB/OG、地域への配慮ということであれば、アンケート結果をHPに載せて情報発信して周知し、理解を得ていくのがよいのでは。曳馬中らしさは校章などで出せばよい（池村委員）

→浜松市の制服検討委員会で市内統一も含めて検討しているところ。ブレザー化すると、校内服を中に着てくるのが難しくなるため、更衣室等の問題もある。夏服は熱中症の懸念から着る機会が少ない（玉木校長）

→地区社協20周年事業として、ランドセルリユース事業を進めている。制服もできるのではないかと（秀住委員）

その他報告事項等

・主幹教諭廣田から、職場体験活動について報告があった。

・教頭平原から、夢育やらまいか事業進行状況等について報告があった。

・参加者より

・今後、協働センター祭り、二十歳の集いが行われる（野川協働センター長）

・次回議長は、鈴木哲也委員が担当する。

・今後の予定

第3回運営協議会：令和6年2月16日（金）10:00～

以上